

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	80784に同じ
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	80784に同じ
												ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	80784に同じ
												B型肝炎	FDA/CBER 2008年5月 業界向けガイダンス(案)	80784に同じ
												B型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: e52-56	80784に同じ
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	80784に同じ
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	80784に同じ
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 627-633	80784に同じ
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	80784に同じ
												C型肝炎	第70回 日本血液学会総会 2008年10月10-12日	80784に同じ
												E型肝炎	Am J Trop Med Hyg 2008; 78: 1012-1015	80784に同じ
247	2008/12/17	80787	日本赤十字社	—	合成血	人血液	日本	有効成分	有	無	無	細菌感染	Transfusion 2008; 48: 1520-1521	80784に同じ
												細菌感染	Am J Infect Control 2008; 36: 602	80784に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl. 1), 2A-S01-02	80784に同じ
												感染	Vox Sanguinis 2008; 94: 315-323	80784に同じ
												ブルセラ症	Clin Infect Dis 2008; 46: e131-136	80784に同じ
												サルモネラ	CDC 2008年7月8日	80784に同じ
												バベシア症	American Society for Microbiology 108th General Meeting 2008年6 月1-5日、Boston	80784に同じ
												アメリカ・トリバ ノソーマ症	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl.1): 39	80784に同じ
												アメリカ・トリバ ノソーマ症	Transfusion 2008; 48: 1862-1868	80784に同じ
												原虫感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1013- 1018	80784に同じ
												マラリア	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1434- 1436	80784に同じ
												リケッチア症	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1019- 1023	80784に同じ
												デング熱	Hong Kong Med J 2008; 14: 170-177	80784に同じ
												ウエストナイル ウイルス	Rev Panam Salud Publica 2006; 19: 112-117	80784に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	80784に同じ
												コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20080709.2092	80784に同じ
												バルボウイルス	Transfusion 2008; 48: 1036-1037	80784に同じ
												ハンタウイルス	Emerg Infect Dis 2008; 14: 808-810	80784に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20080720.2201	80784に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ann Neurol 2008; 63: 697-708	80784に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	80784に同じ
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	80784に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e2878	80784に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	80784に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	80784に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	80784に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	80784に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	80784に同じ
												HIV	ABC Newsletter No.26 2008年7月4日	80784に同じ
												インフルエンザ	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl. 1): 40	80784に同じ
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	80784に同じ
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	80784に同じ
												ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	80784に同じ
												B型肝炎	FDA/CBER 2008年5月 業界向けガイダンス(案)	80784に同じ
												B型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: e52-56	80784に同じ
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	80784に同じ
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	80784に同じ
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 627-633	80784に同じ
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	80784に同じ
												C型肝炎	第70回 日本血液学会総会 2008年10月10-12日	80784に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	Am J Trop Med Hyg 2008; 78: 1012-1015	80784Iと同じ
248	2008/12/17	80788	日本赤十字社	抗HBs人免疫グロブリン	抗HBs人免疫グロブリン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	細菌感染	American Society for Microbiology 108th General Meeting 2008年6月1-5日	マサチューセッツの医療センターで品質管理のため使用された廃棄製剤、使用期限切れロット、アフエーシスの残り的人血清アルブミン製剤を入手し、クラミジアの有無を調べた。その結果、PCR及びウエスタンブロットにより、4社の20製剤全てにおいてクラミジアの存在が確認された。また、in vitro培養を行ったところ11検体(55%)でクラミジア生菌が生育した。
												デング熱	Hong Kong Med J 2008; 14: 170-177	1998～2005年に香港の公立病院に入院したデング確定患者全員の医療記録をレトロスペクティブに検討した。126例中123例(98%)がデング熱、3例(2%)がデング出血熱であった。1例が輸血により感染したデング熱であった。116例が輸入症例、10例が地域症例であった。デングウイルス1型が最も多く、次に2型、3型、4型の順であった。死亡例はなかった。発熱、皮疹を呈し、血小板減少などを示す渡航歴のある患者には鑑別診断にデング熱を含めるべきである。
												ウエストナイルウイルス	Rev Panam Salud Publica 2006; 19: 112-117	文献および未発表データから、ラテンアメリカやカリブ海地域のウエストナイルウイルス(WNV)感染の現状をまとめた。WNV感染は2001年にCayman諸島とFlorida Keysの住民で見られ、2002～2004年にジャマイカ、メキシコなど周辺地域で動物や鳥類での感染が確認されている。しかし、疾患報告数は少ない。この不可解な熱帯生態系でのウイルス減弱または他の可能性を検討するためには分離株が必要である。
												ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	2008年9月に、イタリアで何年かぶりにヒトのウエストナイルウイルス(WNV)脳炎が2例報告された。1例目はFerraraとBolognaの間に住む80歳代の女性、2例目はFerraraに住む60代後半の男性であった。また、ウマ6頭とトリ13羽でWNV感染が確認された。WNV髄膜脳炎の積極的サーベイランスプログラムが開始され、当該地域で供血者スクリーニング用NATが導入された。また、当該地域に1日以上滞在したことのある供血者を28日間供血延期する措置がとられた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20080709.2092	2008年7月7日、トルコのBursa、CanakkaleおよびSamsunの病院でダニ媒介性疾患であるクリミア・コンゴ出血熱により3名が死亡し、この2ヶ月での死者数は37名となった。保健省はダニに注意するよう呼びかけ、咬まれた場合は決して手でつぶさずに、医師にピンセットで注意深く取り除いてもらい、ヨードで消毒することを推奨している。
												パルボウイルス	Transfusion 2008; 48: 1036-1037	大阪における1997-1999年の献血者979052名中102名がヒトパルボウイルスB19感染者であった。B19感染者のうち20名のB19 DNA、IgGおよびIgMを長期間フォローアップしたところ、B19持続感染が観察されたが、B19感染の症状を報告した者はいなかった。B19急性感染後の血漿ウイルス力価は約1年で 10^4 IU/mL未満、約2年で 10^1 IU/mL未満まで下がること示された。
												ハンタウイルス	Emerg Infect Dis 2008; 14: 808-810	スウェーデンにおけるPuumalaウイルスの予期せぬ大規模アウトブレイクにより、2007年のVästerbotten地方の流行性腎症患者の数は100,000人当たり313人に至った。齧歯類の増加の他、気候温暖化および地表を覆う積雪の減少により、ウイルスを媒介するハタネズミの活動が活発だったことが、当該アウトブレイクの要因であろうと考えられる。
												ウイルス感染	ProMED-mail20080720.2201	オーストラリアBrisbaneの動物病院のスタッフが致死性のヘンドラウイルスに感染した。看護師1名と獣医1名が、感染したウマ数頭を治療後、感染した。前回のアウトブレイクは1994年で調教師1名とウマ14頭が死亡した。同ウイルスがヒト-ヒト感染するとのエビデンスはなく、拡大する危険性はない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ann Neurol 2008; 63: 697-708	国立プリオン病病因調査センターの患者11名(平均発症年齢62歳)を調べたところ、海綿状変性の型、PrP免疫染色パターンおよびマイクロブラークの存在が、既知のプリオン病とは異なり、通常の方法では典型的なプロテアーゼ抵抗性PrPは検出されなかった。我々はこれらをプロテアーゼ感受性プリオン病(PSP _{Pr})と名付けた。PSP _{Pr} は、プリオン病の中では稀ではなく、我々のデータが示すよりもさらに多い可能性がある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	CJDサーベイランス委員会による調査では1999年4月から2008年2月までの9年間に日本国内で1069例がプリオン病と判定された。うち孤発性CJDが821例(76.8%)、遺伝性プリオン病が171例(16.0%)、硬膜移植後CJD74例(6.9%)、変異型CJD1例(0.1%)、分類不能2例(0.2%)であった。日本のプリオン病剖検率は欧米諸国より著明に低かった。孤発性CJDの病型は欧米に比べMM2型が多かったが、非典型例が多く剖検されている可能性が考えられた。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	オーストリアの39歳男性が感覚異常などの神経症状で入院後、急速に悪化し、4ヶ月後に死亡した。組織学的検査で海綿状変化、神経細胞脱落及びグリオシスが、免疫組織化学的検査でびまん性シナプティックな異常プリオンの沈着が見られ、CJDと診断された。また患者のPRNPは129Met-Metであった。患者は22年前まで死体由来のヒト成長ホルモン(hGH)製剤治療を受けており、医源性リスクが認められるため、孤発性若年性CJDの可能性も否定できないが、WHO基準により確定医源性CJDと分類された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e2878	野生型マウスおよびヒトPrPを発現しているトランスジェニックマウスに、輸血関連vCJD感染第1号症例由来の脳材料を接種し、輸血によるヒト-ヒト間の2次感染後のvCJD病原体の性質について調べた。その結果、潜伏期間、臨床症状、神経病理学的特徴およびPrP型について、vCJD(輸血)接種群はvCJD(BSE)接種群と類似していた。vCJD病原体は、ヒトにおける2次感染により、有意な変化が起こらないことが明らかとなった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	263Kスクレイビーの臨床症状を呈するハムスター22匹の尿にTSE感染性があることが示された。これらの動物の腎臓と膀胱のホモジネートは20000倍以上希釈してもTSE感染性があった。組織学的、免疫組織化学的分析では、腎臓における疾患関連PrPの散発的な沈着以外、炎症や病変は見られなかった。尿中のTSE感染性が、自然のTSEの水平感染に何らかの役割を果たす可能性がある。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	ヒツジを用いた感染実験において、BSEは36%、スクレイビーは43%と予想以上に高い輸血伝播率を示した。高い伝播率および臨床的に陽性のレシピエントにおける比較的短期間の一定した潜伏期間は、血中の感染性力価が高いことおよびTSEが輸血により効率的に伝播することを示唆する。血液製剤によるヒトでのvCJD伝播を研究するために、ヒツジが有用なモデルであることが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	ウイルス除去膜濾過工程を含んでいる製剤(血液凝固第VIII因子製剤: プラノバ20N濾過、抗HBs人免疫グロブリン製剤: プラノバ35N濾過)について、263K株感染ハムスターより得たSUS処理PrPScを用いて、その除去効果を検証した。その結果、SUS処理PrPScは濾過膜の孔径よりも小さいにもかかわらず、プラノバ35Nやプラノバ20Nで除去された。PrPScが凝集したり、膜へ吸着したためと考えられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	スクレイビー263K感染ハムスター脳乳剤を脳内接種したハムスターにおける血中PrPres経時的变化を追跡したところ、PK抵抗性3F4反応性蛋白バンドは、感染後4~6週で認められ、10週ではほぼ消失した。発症末期では血中PrPresと見られる蛋白バンドは認められなかった。PrPresをマーカーとした血液検査は感染後発症前~発症中期までに限定される可能性が示唆された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	非定型BSE(BASE)に感染した無症候のイタリアの乳牛の脳ホモジネートをカニクイザルに脳内接種した。BASE接種サルは生存期間が短く、古典的BSEまたはvCJD接種サルとは異なる臨床的展開、組織変化、PrPresパターンを示した。感染牛と同じ国の孤発性CJD患者でPrPが異常なウエスタンブロットを示す4例のうち3例のPrPresに同じ生化学的特徴を認めた。BASEの霊長類における高い病原性および見かけ上孤発性CJDである症例との関連の可能性が示唆された。
												HIV	ABC Newsletter No.26 2008年7月4日	米国医師会(AMA)は、男性同性愛行為を行った男性(MSM)の供血延期期間を生産としている連邦の方針を5年間に変更することを支持するという声明を採択した。AMAはこの新方針をFDAに通告し、この方針を推し進めるグループと協力していく。FDAは1977年以降、MSMの供血を生産延期することを血液事業者に要求しているが、アメリカ血液センターなどからは反対意見が出されている。
												インフルエンザ	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl. 1): 40	米国におけるパンデミックインフルエンザの血液供給に対する影響をシミュレーションした。3ヶ月間の血液供血量が50%減少した場合、血液需要に制限がない場合は在庫のほとんどを使い尽くしたが、血液の使用を必要最低限に制限した場合は在庫がなくなることはなかった。
												インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	タミフル耐性型の「通常の」季節性インフルエンザが急速に拡大しており、南アフリカでは今年の冬(2008~2009年)のインフルエンザに効果がないおそれがある。WHOのデータによると同国でH1N1株に感染した107名に関する検査の結果、全員がタミフルに耐性の突然変異株を保有していた。2008年4月1日から8月20日に南半球の12カ国のH1N1インフルエンザ感染患者由来検体788例中242例(31%)がタミフル耐性に関係があるH274Y突然変異を有していた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	出血熱症例の小さな流行が、2003年12月と2004年1月にボリビアのCochabamba付近で発生した。1死亡例から検体を入手し、患者血清検体から非細胞障害性ウイルスを単離し、アレナウイルスと同定した。RT-PCR分析、並びにS及びL RNAセグメント配列の解析の結果、このウイルスはサビアウイルスに最も近縁であるが、新規のウイルスであることが示された。我々はこのウイルスをChapareウイルスと命名することを提案する。
												ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	南アフリカ、ヨハネスブルグで3名の死者を出したウイルスは、暫定的に西アフリカのラッサウイルスに近い、齧歯類媒介性アレナウイルスであると特定された。国立感染症研究所と保健省は共同で、このウイルスが体液を介してヒトからヒトに感染するため、「患者の看護に特別な予防的措置が必要である」との声明を発表した。3名の死因を確定するには更なる検査が必要である。
												B型肝炎	FDA/CBER 2008年 5月 業界向けガイ ダンス(案)	FDAはB型肝炎コア抗原に対する抗体(抗HBc抗体)が陽性となったために供血延期となった供血者のリエントリー・アルゴリズムを提案するガイダンス案を発表した。これまで、抗HBc抗体が2回以上陽性となった供血者は無期限に供血延期とされていたが、本ガイダンスでは2回目に陽性となった後、8週間以上経ってからHBs抗原、抗HBc抗体および高感度HBV NATIによってHBV感染が否定された場合は供血可能となる。
												B型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: e52-56	2000年1月から2004年12月に日本で新たにB型肝炎表面抗原陽性となった患者を調査したところ、552名中23名(4%)がHBV再活性化で、529名が急性B型肝炎であった。再活性化群は急性B型肝炎群に比べ、年齢およびHBV DNA値が有意に高く、ALTおよびアルブミンピーク値は低かった。また再活性化群の4分の1の患者が劇症肝不全となり、死亡した。肝臓関連死亡率は再活性化群の方が有意に高かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	1971～2005年の35年間に虎ノ門病院に来院した急性HBV感染患者153名および慢性HBV感染患者4277名について5年間毎のHBVジェノタイプ/サブジェノタイプを調べた。急性感染患者数は35年間で増加し続けた。慢性感染患者は1986～1990年が最大であった。ジェノタイプは急性感染患者と慢性感染患者で大きく異なった(A、B、C型: 28.6%、10.3%、59.5% vs 3.0%、12.3%、84.5%)。最近では外国のサブジェノタイプB2/Baが増加する傾向がある。
												B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	HBV DNA陽性かつ表面抗原(HBsAg)陰性オカルトHBV感染の検出感度を上げるために、HBV DNAとHBsAgを同時に濃縮する新規方法を開発した。二価金属存在下でpoly-L-lysineでコートした磁気ビーズを使用し、ウイルス凝集反応を増強させ、ウイルスを濃縮する方法により、HBV DNAとHBsAg量は、最高4～7倍に濃縮された。本方法により、EIAとHBV NATの感度が上昇し、HBsAg EIAを用いてオカルトHBV感染者40名のうち27名を検出することができた。
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 627-633	フランスの大学病院の血液透析ユニットでのHCV伝播リスクにおける環境汚染および標準的注意の非遵守の役割を評価した。試験期間中にHCV陽性となった2名のうち1名は、同ユニットで治療中の慢性感染患者と同じウイルス株に感染していることが系統遺伝学的解析により明らかとなった。環境表面検体740例中82例がヘモグロビンを含み、その内6例がHCV RNAを含んでいた。手の衛生に関する遵守率は37%、患者ケアの直後に手袋をはずしていたのは33%であった。
												C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	ニューヨーク市のEast Harlemのクリニックから18歳以上で血中HCV PCR陽性の吸引用麻薬常習者38名の鼻汁検体および吸引に使用したストローを入手し、血液およびHCV RNAの存在の有無を調べた。鼻汁検体28例(74%)、ストロー3例(8%)から血液が検出され、鼻汁検体5例(13%)、ストロー2例(5%)でHCV RNAが検出された。HCVウイルスの鼻腔内伝播のウイルス学的妥当性が示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												C型肝炎	第70回 日本血液学会総会 2008年10月10～12日	症例は再生不良性貧血の54歳の女性で、2007年6月20日に初回輸血が実施され、初回輸血前検査はHCV抗体陰性、HCVコア蛋白陰性で、あった。10月1日の輸血後、HCVコア蛋白が陽性化したため、遡及調査を開始した。患者には計54本の輸血があり、保管検体の個別NATにより、1検体からHCV-RNAを検出した。患者と献血者のHCV Core-E1-E2領域の塩基配列が一致したことから、本症例は輸血によるHCV感染である可能性が極めて高い。
												E型肝炎	Am J Trop Med Hyg 2008; 78: 1012-1015	スペインでブタに曝露しているヒト101名と曝露していないヒト97名におけるHEV感染の有無を調べた。抗HEV IgG保有率は曝露群では18.8%、非曝露群では4.1%であった。ブタに接するヒトの抗HEV IgG保有リスクは5.4倍(P=0.03)であった。HEV感染は養豚作業員の職業病として扱うべきである。
249	2008/12/18	80789	サノフィバ スツール 第一三共 ワクチン	黄熱ワクチン	発育鶏胚	発育鶏卵	米国	製造工程	無	無	無			
250	2008/12/22	80790	メルクセ ローノ	セツキシマブ(遺伝子組換え)	リボたん白 質	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED- mail20080724.2257	2008年7月23日に米国South Dakota州当局は、Hutchinson郡で炭疽のアウトブレイクが発生したと発表した。1件は確定であり、もう1件は疑いで、検査中である。
												炭疽	ProMED- mail20080726.2280	2008年7月24日に米国South Dakota州当局は、Hutchinson郡で炭疽の2番目のアウトブレイクが、検査の結果確定したと発表した。
												炭疽	ProMED- mail20080815.2540	米国MontanaのTed Turner's Flying D付近の農場でウシ1頭が炭疽陽性であり、自然発生した炭疽により死亡した。更にTed Turner's Flying D農場では炭疽により死亡したバイソンの数が増加し、現在までに257頭となった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20080818.2569	米国South Dakotaの3つのウシの群れで炭疽が発生した。このアウトブレイクは比較的小さいとのことである。
251	2008/12/22	80791	メルクセローノ	精製下垂体性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びホルトガルを除く	添加物	有	無	無	炭疽	ProMED-mail20080626.1968	2008年6月9日に、米国North DakotaのPortland付近の雄牛1頭の血液検体が検査のため提出され、炭疽菌が検出された。更に、6月18日にLisbon付近の雌牛1頭が死後、炭疽菌陽性と確定された。
												炭疽	ProMED-mail20080724.2257	2008年7月23日に米国South Dakota州当局は、Hutchinson郡で炭疽のアウトブレイクが発生したと発表した。1件は確定であり、もう1件は疑いで、検査中である。
												炭疽	ProMED-mail20080726.2280	2008年7月24日に米国South Dakota州当局は、Hutchinson郡で炭疽の2番目のアウトブレイクが、検査の結果確定したと発表した。
												炭疽	ProMED-mail20080726.2286	2008年7月25日CFIAは、北SaskatchewanのPaddockwoodの農場でバイソン7頭が炭疽により死亡したことを7月24日に確認したと発表した。7月22日にはPonass Lakeのウシ1頭の死亡を確認した。同地方での今年最初のアウトブレイクは5月26日にKing Georgeの農場でウシ13頭が死亡した後、確認された。
												炭疽	ProMED-mail20080727.2297	2008年7月24日にPaddockwoodのバイソン7頭が炭疽により死亡したことが確認されたが、残りの動物は隔離され、現在観察中である。2006年にはSaskatchewanでは800頭以上の動物が炭疽により死亡した。2008年はこれまで21頭が炭疽により死亡している。
												炭疽	ProMED-mail20080812.2500	CFIAは2008年8月11日と8月9日に、Saskatchewanで更に2件のウシにおける炭疽を確認した。今年の春以降の炭疽による死亡は24頭となった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20080815.2540	米国MontanaのTed Turner's Flying D付近の農場でウシ1頭が炭疽陽性であり、自然発生した炭疽により死亡した。更にTed Turner's Flying D農場では炭疽により死亡したバイソンの数が増加し、現在までに257頭となった。
												炭疽	ProMED-mail20080818.2569	米国South Dakotaの3つのウシの群れで炭疽が発生した。このアウトブレイクは比較的小さいとのことである。
												ブルセラ症	ProMED-mail20080611.1841	2008年5月、米国Montana州Paradise Valleyのウシ1頭がブルセラ症陽性であった。これにより同州はブルセラ症フリーではなくなった。
												ブルセラ症	ProMED-mail20080619.1907	2008年6月16日、Wyoming州獣医学研究所は、Wyoming州Danielの雌牛2頭の組織からBrucella abortusが培養されたと報告した。同じ群れの残りのウシや近くの群れについて検査する予定である。
												ブルセラ症	ProMED-mail20080626.1966	Wyoming州Danielの牧場のウシ327頭を予備的に検査した結果、更に13頭がブルセラ症に感染している可能性が示された。同じ群れの2頭がブルセラ症に感染していることが既に確定されている。
												BSE	ProMED-mail20080623.1941	2008年6月23日、CFIAはBritish Columbia州の雌牛1頭でBSEを確定した。どの部位もヒト食料または飼料システムに入っていない。出生農場を確定するための調査が開始された。
												BSE	ProMED-mail20080819.2580	2008年8月15日、CFIAはAlbertaの6歳の肉牛1頭でBSEを確定した。2003年以降、カナダで14頭目のBSE牛である。どの部位もヒト食料または飼料システムに入っていない。当該牛は生まれてから死ぬまで、北Albertaの1つの農場で過ごした。詳細調査を実施中である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												結核	ProMED-mail20080710.2100	California中部で結核感染リスクで4800頭以上の乳牛が処分され、16000頭近くのウシが隔離されている。Fresno郡の酪農場で新たに3頭が結核であることが明らかになった。
												細菌感染	Oie/Weekly Disease Information 2008年10月23日号	2008年10月10日にカナダSaskatchewan州Moose Jaw郡Assiniboiaで、ウシアナプラズマ病のアウトブレイクが発生し、10月10日に確定された。10月22日現在、継続中である。ウシにおいて疑い例89頭、確定例1例、処分1例である。
252	2008/12/22	80792	メルクセローノ	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/EPR 2008年5月28日	WHOに報告された2003年以降のトリインフルエンザ確定ヒト症例の集計数である。2008年は、5月28日現在、バングラデシュで1例(死亡0例)、中国で3例(死亡3例)、エジプトで7例(死亡3例)、インドネシアで16例(死亡13例)、およびベトナムで5例(死亡5例)が報告され、合計32例(死亡24例)である。
												鳥インフルエンザ	WHO/EPR 2008年6月19日	WHOに報告された2003年以降のトリインフルエンザ確定ヒト症例の集計数である。2008年は、5月28日現在、バングラデシュで1例(死亡0例)、中国で3例(死亡3例)、エジプトで7例(死亡3例)、インドネシアで18例(死亡15例)、およびベトナムで5例(死亡5例)が報告され、合計34例(死亡26例)である。
												デング熱	ProMED-mail20080505.1542	香港Centre for Health Protectionは2008年の11例目のデング熱症例(30歳男性)を確認した。この男性は2008年4月5～13日にモルジブに滞在し、4月18日に発症した。
												クロストリジウム感染	ProMED-mail20080522.1683	中国CDCによると、Sichuan大学Huaxi病院で30名の患者がガス壊疽に感染した。感染の拡大を防ぐため隔離病棟が設けられた。地震で負傷した患者は診断のため隔離病棟に送られる。今までのところ同病院での交差感染はない。
												細菌感染	ProMED-mail20080805.2400	WHO中国事務局は中国衛生省と診断未確定の出血性疾患について連絡を取っている。中国の専門家は調査を終了した。Shandong省のWanjiakou村においてヒト顆粒球アナプラズマ症の症例4例が特定された。診断はPCRとシーケンス分析で確定された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												狂犬病	ProMED-mail20081028.3405	2008年10月26日、中国南西部のYunnan省の田舎で、狂犬病により6名が死亡したため11000匹以上のイヌを処分するよう当局は命令した。Yunann省Mile郡では90000頭以上のイヌのうち約84000匹は狂犬病ワクチンを接種されていたが、予防接種を受けていない11500匹が処分された。
253	2008/12/22	80793	メルクセローノ	精製下垂体性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
254	2008/12/22	80794	メルクセローノ	ヒト絨毛性腺刺激ホルモン	ヒト絨毛性腺刺激ホルモン	人尿	韓国	有効成分	無	無	無			
255	2008/12/22	80795	メルクセローノ	セツキシマブ(遺伝子組換え)	マウスハイブリドーマ細胞	マウスハイブリドーマ細胞株	米国	製造工程	無	無	無			
256	2008/12/22	80796	メルクセローノ	セツキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
257	2008/12/22	80797	メルクセローノ	セツキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
258	2008/12/24	80798	協和発酵キリン	アルテブラーゼ(遺伝子組換え)	ペプトン	ウシ胆汁、結合組織、皮膚、骨(頭蓋骨、せき髄を含まない。せき柱骨を含む可能性がある。)に由来するペプトン	米国	製造工程	無	無	無			
259	2008/12/24	80799	協和発酵キリン	アルテブラーゼ(遺伝子組換え) エポエチンアルファ(遺伝子組換え) ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
260	2008/12/24	80800	協和発酵キリン	①アルテブラーゼ(遺伝子組換え) ②エポエチンアルファ(遺伝子組換え) ③ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	①米国、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ ②③オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
261	2008/12/24	80801	協和発酵キリン	エポエチンアルファ(遺伝子組換え) ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)	トリブシン	ブタ膀胱由来トリブシン	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
262	2008/12/24	80802	協和発酵キリン	ダルベポエチン アルファ(遺伝子組換え)	乳糖	ウシ乳由来の乳糖	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
263	2008/12/24	80803	シェリング・ブラウ	フォリトロピンベータ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
264	2008/12/24	80804	シェリング・ブラウ	フォリトロピンベータ(遺伝子組換え)	ウシトランスフェリン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
265	2008/12/24	80805	シェリング・ブラウ	フォリトロピンベータ(遺伝子組換え)	ブタインスリン	ブタ膀胱抽出物	原産国不明(米国薬局方及びヨーロッパ薬局方適合品)	製造工程	無	無	無			
266	2008/12/24	80806	シェリング・ブラウ	フォリトロピンベータ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	原産国不明(ATCC登録株)	製造工程	無	無	無			
267	2008/12/24	80807	鳥居薬品	アレルゲンエキス	アレルゲンエキス	Aspergillus fumigatus	—	有効成分	無	無	無			
268	2008/12/24	80808	鳥居薬品	アレルゲンエキス	アレルゲンエキス	Alternaria kikuchiana	—	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
269	2008/12/24	80809	鳥居薬品	アレルゲンエキス	アレルゲン エキス	Candida albicans	—	有効成分	無	無	無			
270	2008/12/24	80810	鳥居薬品	アレルゲンエキス	アレルゲン エキス	Cladosporium cladosporioid es	—	有効成分	無	無	無			
271	2008/12/24	80811	鳥居薬品	アレルゲンエキス	アレルゲン エキス	Penicillium luteum	—	有効成分	無	無	無			
272	2008/12/24	80812	田辺三菱 製薬	アルテプラゼ(遺伝子組換え)注射剤	チャイニーズ ハムスター 卵巣細胞	チャイニーズ ハムスター卵 巣	米国	製造工程	無	無	無			
273	2008/12/24	80813	田辺三菱 製薬	アルテプラゼ(遺伝子組換え)注射剤	ウシ胎児血 清	ウシ血液	米国、オー ストラリア、 ニュージー ランド、カナ ダ	製造工程	無	無	無			
274	2008/12/24	80825	田辺三菱 製薬	アルテプラゼ(遺伝子組換え)注射剤	ペプトン	ウシの胆汁、 結合組織、皮 膚、骨(頭蓋 骨、せき髄を 含まない。せ き柱骨を含む 可能性がある。 。)に由来 するペプトン	米国、カナ ダ	製造工程	無	無	無			
275	2008/12/25	80814	富士製薬 工業	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	ニュージー ランド	有効成分	無	無	無			
276	2008/12/25	80815	富士製薬 工業	トロンピン	トロンボプ ラスチン	ブタの肺	デンマーク	製造工程	無	無	無			
277	2008/12/25	80816	バクスター	乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン	人免疫グロ ブリンG	人血漿	米国	有効成分	無	有	無			
278	2008/12/25	80817	バクスター	乾燥イオン交換樹脂処理人免疫グロブリン	人血清アル ブミン	人血漿	米国	添加物	無	有	無			